

令和7年度 第2回 幸区地域包括支援センター運営協議会議事録

- 1 会議名 令和7年度第2回幸区地域包括支援センター運営協議会
- 2 開催日時 令和8年2月12日(木) 午前10時00分から11時40分まで
- 3 開催場所 さいわい健康プラザ ホールA
- 4 出席者
 - (1) 委員 三條委員(会長) 豊田委員(副会長) 高村委員 田中委員
山本委員 渡部委員 笠原委員(7名)
 - (2) 地域包括支援センター 白石センター長(幸風苑) 山崎センター長(しゃんぐりら)
 - (3) 事務局 幸区地域みまもり支援センター 荒木所長 上久保副所長
幸区役所高齢・障害課 荒平課長 石松係長 高野職員
幸区役所地域ケア推進課 小田係長
幸区役所地域支援課 服部課長、外村係長
健康福祉局地域包括ケア推進室 戸田職員
- 5 欠席者 髭内委員(1名)
- 6 傍聴者 0名
- 7 議題 (公開)
 - (1) 令和7年度幸区課題整理シート(地域包括支援センター事業)の進捗報告
 - (2) 地域包括支援センターから市/区への提案に対する幸区回答報告
 - (3) 運営状況確認シートの導入について
 - (4) センター長からの近況報告と意見交換
 - (5) その他:令和8年度運営協議会1回目の日程について(事務局提案)
- 8 配布資料

【事前郵送での配布資料】

《当日使用資料》

次第

資料1 令和7年度幸区課題整理シート(地域包括支援センター事業)

資料2 「地域包括支援センターから市/区への提案」に対する区回答及び回答説明の結果報告

資料3 「地域包括支援センター事業計画」の実施状況等の確認及び区地域包括支援センター運営協議会への報告について

資料4～9 令和7年度地域包括支援センター運営状況確認シート

9 審議経過

【開催宣言】司会(荒平課長)

【伝達事項】事務局より

- ・「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条に基づき、会議は公開。
- ・会議録の作成には委員名を記載するものとし、文書開示請求があった場合には委員名は原則開示。

【会議成立の報告】

委員8名のうち7名出席。髭内委員欠席。委員の半数以上の出席あるため会議成立報告。

【所長挨拶】

【新委員紹介・委嘱状交付】

【資料の確認】

【会長挨拶】

【議事開始宣言】

<議題1>

「令和7年度幸区課題整理シート（地域包括支援センター事業）の進捗報告」

【資料1について事務局より説明】

【質疑応答】

三條会長

改めて包括の仕事量は多く、分野も広いと感じた。地域としては「次世代の担い手確保が難しい」という課題があるが、そういった地域の担い手は報酬がなく、ボランティアでやってくださっており、かつその年齢層は退職後の年代の方が多くを占めているのか。

事務局

退職前から地域活動を熱心にされていて、現役引退後にさらに専念するという方が多いと思われる。民生委員には70代の方もおり、後任が不足しているという現状もある。

三條会長

川崎市に限らず国全体の課題として、「各自の生活に困窮していて他人どころでない」という問題があるのが現状。担い手確保のためには、ある程度の報酬について将来的に検討しなくてはならないのではないかと思う。

また、前回の協議会の中で河原町団地について、「モデルケースのような地区にできないか」と提案したが、幸区以外にも宮前区や麻生区など、より高齢化が課題になる地区があるということが改めて分かった。

豊田委員

課題整理シート内の「高齢者への適切な相談対応・支援」で河原町地区があがっていたが、ここは川崎市の一つの特徴だと思う。市としてターゲット地区を絞ることを考えたときに、先を見越して宮前区というのは理解できるが、河原町の高層住宅における支援方法・在り方というのは形として残すべきだと思う。「どの地区に重点を置くか」というのは市の政策だが、それであれば区としてきちんと取り上げていくという方法で取り組めないだろうか。各区において色々な特徴があるのは分かるが、河原町団地は、特に外国籍の方も増え、様々な

支援が必要な方々が集まってきている。包括の中でも「多世代をターゲットにしている」というのは今後も重要と思うので、区として取り上げていってほしい。

また、本来生活支援コーディネーターというのは包括と組んで協働すべき。横浜市は包括支援センターの中に生活支援コーディネーターを配置している。大田区も同様。

せっかくこのような職種を配置しているのであれば、包括と現場とのつながりを伸ばしていくという方向性がよいと思う。

その観点から見ると、地域福祉計画とどのように関連しているのだろうか。生活支援コーディネーターの体制整備など、行政として高齢分野は特に取り組みを進めるべきところだと思う。区の報告内容を聞いていると、地域福祉計画と非常に関連しているところがあるように感じるが、その計画との関連性を意識しながら取り組んだ方が良いのではないか。また、高齢分野のみでなく、みまもり支援センター全体で力を入れて取り組んでいく方が財源の使い方もより効果的なものになるのではないかと思う。

三條会長

「宮前区・麻生区の高齢化が進む」と書かれているが、身体的能力とは別で、経済面で自立できる人口は多いのか。

事務局

今の推測自体は、人口率に基づく予測のみで割り出した数値である。

宮前区はかなり高所得の方もいる一方、市営住宅も非常に多く、一概に“生活水準が高い”とはいえないエリアである。しかし開発されている時期が非常に似かよっているため、おそらく一気に高齢化が加速する所だと思う。エリアごとの課題はあり、麻生区は先行してかなり高齢化が進んでいるため、「買い物ができない」という課題も前から出ており一概に考えるのは難しいと思う。

豊田委員

横浜市だと旭区が宮前区同様、駅周辺に大きな建物があり、高台でもある地区。

足が不自由になると買い物に行けなくなり、車に乗れない人は引きこもるようになる。今後は似たような特徴を持つ地区や、隣接都市との情報交換をもっとしてもよいと思う。「みんなと暮らす町包括が隣区包括と協働している」という話があったが、包括も区を越えて互いに情報を共有していかないと「生活エリア」は自包括の地区だけには留まらないと思う。スーパーや通院先が区を跨っているということも、区境に近ければあると思う。

23区は、区が違くと市が違うのと同様。包括の考え方や取り組みの一つとっても全然違うということもある。先ほどの報告の中にも「連携」とあったが、そこを積極的に進めなくてはならないと思う。

<議題2>

「地域包括支援センターから市／区への提案に対する幸区回答報告」

【資料2について事務局より説明】

【質疑応答】

(委員意見および質疑なし)

<議題3>

「運営状況確認シートの導入について」

【資料3～9について事務局より説明】

【質疑応答】

三條会長

運営状況確認シートを見て、幸区は後見制度の導入支援が全体的に少ないと感じた。個人的に夢見ヶ崎包括と関わる機会が多く、積極的に後見制度が導入されていると感じていたが、それでも市内平均と比較すると半分にも至っていないことが見て取れた。シート内の項目については各家庭状況やバックグラウンドの違いもあるので、一概に数字だけを見て評価はできないと思う。市内平均との比較がその包括支援センターの課題というわけではないが、事前に説明を受けていなければそう捉えてしまう人もいるのではないかと思う。

渡部委員

文章ではなく数字で見ることができるというのはよい取り組みだと感じた。幸区だけでも包括によってこれだけの違いが出てくるということが分かった。

豊田委員

数字で見える、可視化はすごく良いと思うが、数字だけが独り歩きしてしまう危険性もある。先ほど事務局から「共通認識のすり合わせをしていかななくてはならない」との説明があったが、記入の仕方・手順も含め、ぜひ包括の意見を取り入れていってほしい。可視化すると、国の基準や平均との比較から問題が見えてくるが、それがそのまま地域課題になるか、と言われるとそうではない。ここと比較してどうだ、という情報だけが先行してしまい「弱い」とか「できていない」というレッテルを張られてしまわないようにしてほしい。今後活用していく過程でいろんな意見が出ると思うので、ぜひ包括の皆さまの意見も聞いて反映させてほしい。これは幸区だけの話でなくて、全市的な問題かと思うので、ぜひ市にも伝えてほしい。

三條会長

運営状況確認シートでは各包括の特徴が出ていると思うので、課題だけでなく、各包括の強みや注力していることのアピールにもぜひ使っていただきたい。

<議題4>

「センター長からの近況報告と意見交換」

*白石センター長（幸風苑地域包括支援センター）、山崎センター長（しゃんぐりら地域包括支援センター）参加

【各センター長より挨拶】

白石センター長（幸風苑地域包括支援センター）

活動の近況としては、「閉じこもり防止」に力を入れている。コロナ禍で地域活動を中止し、その後事業自体は再開をしてきているものの、そこに繋がらず閉じこもってしまう方が多いのではないかと、というところに着目しかかわりを開始している。

「支援拒否の方へのアウトリーチ」という観点での強みとしては、担当地区内2か所の事業所に生活支援コーディネーターが配置されているということがある。その事業所と互いに持つ情報を共有しあうことでアプローチの方法を多方面から検討でき、支援ができるという地域性がある。

また、担当地区が川崎駅周辺ということもあり、様々な地域の活動場所がある。包括として介護保険制度以外の場でも活動し、地域活動の場をいかに発信できるか、というところを取り組んでいる。

山崎センター長（しゃんぐりら地域包括支援センター）

活動エリアの特徴としてマンションの数がかなり多い地区、地域に根付いた方が少なく、他の地域から転入された方が多いと把握している。日頃から「包括のことを知ってもらおう」ということを第一に考え、取り組みを検討している。

今年度は、困った時の早期相談に繋がるよう、高齢者の方がよく通われているクリニックや商店、薬局等を回り、包括の案内チラシを置かせていただいた。

長く地域にいる方は地域活動にも参加されている方が多く、地域の民生委員とのつながりも多いので4つの民協とのかかわりがあるが、民生委員との連携は常に持ちながら、できるだけ早くに相談に繋がるようにしている。

職員も今年度は大きな異動なく、また1名職員を追加することができ、比較的安定した運営体制がとれたと思うが、まだまだ人材育成の段階ということで、「相談のデータをとる」という部分で標準化できていないところもある。帳票化にむけて話し合いを進めるなど、同じ方向をむいて取り組んでいけるようにしたい。

【近況報告・意見交換】

三條会長

生活支援コーディネーターを配置している事業所との連携として、定期的に会議の場を設けているのか、それともその都度電話やり取りのみか。

白石センター長

地域ケア圏域会議を閉じこもり防止の観点で年2回開催している。

生活支援コーディネーターだけでなく、地域で活動している方、民生委員、地区社協、病院のワーカー、薬局の薬剤師、行政などの多職種の方に来ていただいている。

それとは別に、気になる方がいれば逐一連絡を取り合い、支援の方法を精査しながら取り組んでいる。地域と個々の両方で取り組んでいる。

三條会長

年2回の地域ケア圏域会議は何人ほど集まるのか。

白石センター長

今年3月開催予定の会議は30名程度の予定。開催当初は10名程度であった。

三條会長

それだけネットワークが広がっているということは心強い。

山本委員

課題整理シートの中に、「御幸いこいの家でサロンを主催する」という取り組みの記載があったが、しゃんぐりらの担当地区の範囲は横に長く、御幸いこいの家からは遠い印象がある。いこいの家の利用者は包括の地区関係なく利用されるため、他包括との共催でサロン活動をする等の連携もあるとよいと思った。各包括、それぞれで活動をしているが、近隣の包括との共催事業等はあるのか。

三條会長

地域によっては担当包括よりも他の包括の方が近いということもある。担当地区外の高齢者から相談を受けることもあるのか。

山崎センター長

高齢者対象の事業は共催でできていないが、幸区で活動しているケアマネージャー向けの研修は合同で開催している。また、「ネットワーク・これ幸」という地域との連携チームで区民祭でもブースを出し、広域の中で相談を受けられるようにしている。

「他地区の方が来ることが多い」というのは実感しており、特に区役所付近にお住まいの方は包括からかなり距離があるため「遠い」というイメージを持たれている。人の生活圏域は難しいと感じることが多い。

白石センター長

幸風苑包括の主催事業は、担当地区に限らずだれでも参加できるようにしている。中には古市場から来られる方もいる。協働ではないにしても、“地区を区切らない”ということにしている。ただ、その際に個々の相談に来られた場合、共通の情報はお伝えできるが、継続的

な相談となりそうな場合は担当包括を案内している。

【その他議題1～4についての意見交換】

三條会長

運営状況シートについて、「5 センターの取り組み状況」は、別紙参照とせず、ある程度文章の記載があった方が良くように感じる。今後ぜひそのようにしてほしい。

田中委員

課題整理シートの「3 支援者の減少防止、支援者の負担増加防止」について、ケアマネジャーの高齢化や、バーンアウトにより退職するという問題があり、「ケアマネがやめてしまう」ことによる新規の依頼が増加している傾向がある。支援に繋がるまでのプロセスも課題としてあるが、一度ケアマネが決まってサービスが開始されたとしても、そのあとにケアマネの退職により困ってしまうというリスクも今後考えられる。単純にケアマネの絶対数が足りないと感じる。

三條会長

ケアマネの育成問題もある。

田中委員

ケアマネジャーがいなければ利用者が困ってしまうので、退職前に自身で後任のケアマネを探す方もいれば、包括にお願いする方もいる。

三條会長

後任探しに苦労しているというのは知らなかった。

田中委員

退職を理由に後任を依頼されることもあるが、既に利用者が多く、断らざるを得ない現状もある。「多くの事業所へ打診し、見つからない場合は包括へ相談する」という話も聞く。

三條会長

実際に包括が後任を探すことは多くあるのか。

白石センター長

ある。本人や家族からの依頼が多く、「今月末には」など現任のケアマネジャーの退職が迫っている状況の時もあるため、その際は早急に各所へ打診している。

三條会長

これまでもケアマネジャーの高齢化や、絶対数が少ないというのは話題にはなっていた

が、幸区はまだ大きな問題とはなっていないかった。“ケアマネージャー探し”の区の対応部署としては高齢者支援係になるのか。

事務局

区としては相談を受けて各所へ依頼するという対応まではしていない。包括での対応で何とか解決している段階。他区では後任が見つからず、区役所からも数日間ケアマネ事業所へ電話相談したり、後任が見つからない前提で自己作成を検討したりしているということもある。

三條会長

今のところ、包括にそこまでの負担はないのか。

山崎センター長

バーンアウトの理由は、利用者や家族からの過度な要求や、ケアマネージャー業務の理解がうまくいかないことが多い。現状のサービス継続のため、やむを得ず自己作成（セルフプラン）でやっているケースも1件ある。最終的には本人の生活が立ちいかなくなるようフォローはするが、無理にケアマネージャーに依頼してバーンアウトしても困るので、そういう場合は包括で後方支援する。後方支援でも難しく、包括が中心となることが以前に比べてあると思う。

三條会長

包括はケアマネージャーの相談役であり、地域とのつながりもあるが、絶対数を増やすのは難しい。

事務局

運営状況確認シートの「6 運協からの意見」について再度確認。すでに4包括については案として記載しているが疑義等はないか。なければこの案を運協からの意見としたい。

幸風苑、しゃんぐりらについてはこの場での意見交換を基に、運協意見をまとめたい。

- ・幸風苑：閉じこもり・フレイルに着目し、専門のネットワーク会議を開催していることを評価し、今後の継続も期待する。地域情報の多いエリアであるため、今後も区の中での情報発信役としての役割を期待したい。
- ・しゃんぐりら：他地区からの転入者が多く、常に広報活動を意識して実践している。特に、管轄地域が横に長く、多くの民生委員協議会や町内会などと様々な関わりを保ち、連携していることを評価する。今後は、他包括との事業共催も検討し、自包括の負担軽減を図ることも一法ではないか。

以上を運協からの意見としたいが、よろしいか。

三條会長

それで、立派にまとまっていると思う。

事務局

来年度以降は、さらに意見交換が活発になるよう、資料の工夫もしていく。

三條会長

個人的には資料1の課題整理シートがもう少し見やすくなると良いと思う。

【議事終了宣言】

<その他>

事務局より「令和8年度第1回運営協議会の日程について」の提案
日程の候補日は、令和8年9月10日（木）開催予定となった。

【閉会宣言】

終了

文責：高齢者支援係 高野